

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会的養護 I | | | 17639 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 曾田 里美 | 選択 | 2 | 児童養護施設職員 | | | |

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。
このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

社会的養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、（1）社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、（2）社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、（3）児童福祉施設などにおける養護の実践を理解し、児童観や施設養護観を身につける。

授業計画

- オリエンテーション 社会的養護トピックス
- 私たちが生きる社会
- 社会的養護の体系
- 施設への入所に至る経過
- 施設における生活①
- 施設における生活②
- 施設における生活③
- 施設における生活④
- 施設における支援—ライフストーリーワーク—
- 施設の利用方式
- 利用・契約制度を基本とする施設
- 社会的養護の歴史
- 施設における支援内容
- 里親制度
- まとめ

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じて視聴覚教材等で社会的養護の現状

について理解を深める。また、ディスカッションや発表を取り入れ双方向の授業を行う。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法、その他

評価方法は、平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

原田旬哉・杉山宗尚 編著『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』明文書林、2018、ISBN 9784893472793

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|-------------------------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 子どもの保健 | | | 17643 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 狐塚 善樹 | 選択 | 2 | 小児科医 インфекションコントロールドクター(感染管理) | | | |

授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされ、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育の総合的支援が必要とされる。これらのことは小児科医に限られず、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのために以下の項目を理解する。

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
- 3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
- 4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なると共に、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしつかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達の知識に基づいて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防（予防接種、感染対策など）、対応（初期対応、事後対応など）を理解する。以上の知識に基づいて、ある時ある子どもを観て、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

授業計画

- 1 子どもの心身の健康と保健の意義 (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2 子どもの心身の健康と保健の意義 (2) 健康の概念と健康指標
- 3 子どもの心身の健康と保健の意義 (3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
- 4 子どもの心身の健康と保健の意義 (4) 地域における保健活動と子ども虐待防止
- 5 子どもの身体的発育・発達と保健 (1) 身体発育及び運動機能の発達と保健
- 6 子どもの身体的発育・発達と保健 (2) 生理機能の発達と保健
- 7 子どもの心身の健康状態とその把握 (1) 健康状態の観察

- 8 子どもの心身の健康状態とその把握 (2) 心身の不調等の早期発見
- 9 子どもの心身の健康状態とその把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断(I)
- 10 子どもの心身の健康状態とその把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断(II)
- 11 子どもの心身の健康状態とその把握 (4) 保護者との情報共有
- 12 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(I)
- 13 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(II)
- 14 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(III)
- 15 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応

授業の方法

スライド講義を中心とする。スライド配布資料を教科書とし、症例、症状検討も行う。新聞、雑誌、ネットなどの子どもに関する情報（感染、制度、社会問題など）は常にチェックしておく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題
講義内容のまとめ、提示課題、症例、症状検討のレポートの提出（全3回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法について、
平常点30%、定期試験70%

欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容のスライド配布資料とする。

参考図書

子どもの保健 I 佐藤益子／中根淳子編著 ななみ書房、
子どもの健康と安全 「最新 保育士養成講座」総括編集委員会／編 全国社会福祉協議会
保育者・養護教諭を目指す人のための 子どもの保健 ～健康と安全～ 大澤眞木子／小國美也子 日本小児医事出版社
保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省編
幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省

| | | | | | |
|--------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会的養護Ⅱ | | 17640 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 曾田 里美 | 選択 | 1 | 児童養護施設職員 | | |

授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育機能は脆弱化している。家庭養育だけでは子どもの養育は困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護および家庭養護の本質と機能を理解し、援助技術について実践的活動事例を通して学びを深める。
このクラスではKAISEIパーソナリティのS（奉仕）を養う。

授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親家庭で暮らす子どもについてその現状、施設養護との違いを理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

- 1 オリエンテーション 社会的養護Ⅱを学ぶにあたって
- 2 社会的養護の基礎理解
- 3 社会的養護における支援内容
- 4 社会的養護の実際①(養護施設)
- 5 社会的養護の実際②(家庭養護)
- 6 社会的養護の実際③(障害施設)
- 7 社会的養護のこれから
- 8 まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。双方向の授業のため積極的な参加を求める。

準備学修

日ごろから新聞、ニュース等で子どもを取り巻く問題に関心を深めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

公欠以外の欠席は原則認めない。欠席は成績評価において減点する。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

| | | | | | |
|--------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 子ども家庭支援の心理学 | | 17763 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 島田 麻美子 | 選択 | 2 | 臨床心理士、公認心理師 | | |

授業の到達目標

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

生涯発達という視点から、発達の諸特徴や発達課題、初期経験の重要性について学ぶ。また、社会や文化の時代的変化とともに変容し、多様化してきた家族・家庭について理解を深める。保育者として、人の生涯発達について理解した上で、家庭の持つ意味と現状、そしてさまざまな課題を抱える子どもや家庭の理解と支援につながる力を身につけることを目指す。テーマに関連する事例を挙げ、具体的な支援場面へどうつなげていくかを考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション、生涯発達とは
- 2 乳幼児期から学童前期にかけての発達
- 3 学童期後期から青年期にかけての発達
- 4 成人期から老年期にかけての発達
- 5 家族関係・親子関係の理解
- 6 子育ての経験と親としての育ち
- 7 子育てを取り巻く社会的状況
- 8 ライフコースと仕事・子育て
- 9 多様な家庭とその理解
- 10 特別な配慮を要する家庭への支援①
- 11 特別な配慮を要する家庭への支援②
- 12 子どもの精神保健とその課題
- 13 子どもの生活・生育環境とその影響
- 14 子どもの心の健康にかかわる問題
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

グループ発表後は、担当教員よりフィードバックを行う。
平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜プリントを配布する。

参考図書

原信夫・井上美鈴編著『子ども家庭支援の心理学』北樹出版
松本園子他『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房